

# 日本早期認知症学会 第15回学術大会 in 佐倉 超高齢化日本を支える医療と町づくり:医と食と住と

松田 梨沙

2014年 9月12-14日に千葉県佐倉市ユーカリが丘のウイシュトンホテルにて、日本早期認知症学会第15回学術大会が開催されました。今回は、私が大学院生の頃からお世話になっている脳機能研究所の先生から声をかけて頂き、日本早期認知症学会において演者として講演の機会を頂戴いたしました。



学術大会会場前で記念写真



顔が強張ってしまった講演風景

まずはじめに、長谷川和夫先生(聖マリアンナ医科大学, 特別顧問)と武者利光先生(脳機能研究所, 代表取締役社長)による基調講演がありました。次に富山県再生会富山病院の柴田孝先生が「ニューロン活動性トポグラフィと頸動脈の内膜中膜複合体との関係性」、東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニックの林果林先生が「地域在住正常高齢者と認知症高齢者の脳波所見」、最後に私が「脳電位解析技術の歯科治療評価への応用について」を講演しました。

当日は朝から緊張していて、直前までスライドの手直しを行うという状況でしたが、私の思いと裏腹に会場はとても和やかな雰囲気だったため、落ち着いて質疑応答に対応することが出来ました。また、会場内は医科系、工学系の先生方が多いなか、欠損補綴に対する歯科治療が脳電位に及ぼす影響について話せる貴重な場となり、多くの人に歯科補綴治療と脳機能の関係に対する興味を持って頂けたことがとてもうれしく思いました。

学会終了後、以前から気になっていた高円寺のお店で打ち上げを行いました。お店は昭和の裏路地、時間が止まっているのかと思わせる佇まいでした。1階はとても渋い雰囲気のカウンター席で、私たちは急な階段を上がり 4畳半くらいのお座敷に通されました。田舎のおばあちゃん家のようなアットホームな場所だったため、ようやく1日の緊張感から解放され、美味しくお酒を嗜むことが出来ました。

今回、このような貴重な機会を頂きましたことに改めて感謝いたします。今後も、口腔が全身の健康に直結していることを提示するため、日々研究に邁進していく所存です。



緊張感から解放された打ち上げ